

 **Techno Medica**

# 2024年3月期 決算説明会

2024年5月24日

代表取締役社長

**實吉 政知**

- 1. 事業の概要**
- 2. 2024年3月期 決算**
- 3. 2025年3月期業績見通し**
- 4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**

# **Techno Medica**

## **1.事業の概要**

社名	株式会社テクノメディカ / Techno Medica Co. , Ltd
事業内容	臨床検査用分析装置、医療機器の研究開発、製造、販売、輸出及び、 これら装置で使用する消耗品の製造、販売
事業所	本社 研究開発センター、物流センター 支店 : 大阪、名古屋、福岡 営業所 : 札幌、仙台、北関東、甲信越、広島、松山 出張所 : 盛岡、金沢、岡山
海外販売拠点	台湾支店 (新北)
従業員数 (2024年3月末)	237 (69) 名、 派遣社員を含まず ( ) 内は、パート社員の人員を外数で記載

# 2) テクノメディカの歴史



1987年9月  
神奈川県川崎市高津区にて創立

1988年  
全自動血液ガス分析装置の販売を開始

1991年  
自動採血管準備装置の販売を開始

1997年  
本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）

1998年  
本社第2研究所竣工⇒研究開発部門の充実

2004年  
ジャスダック証券取引所へ店頭登録

2005年  
本社第3研究所竣工⇒研究開発部門+物流の充実

2008年  
東京証券取引所市場第一部に指定

2009年  
本社第4ビル竣工⇒生産業務施設の充実

2012年  
ヘルスケアセンターを開設  
⇒ヘルスケア部門の研究開発強化

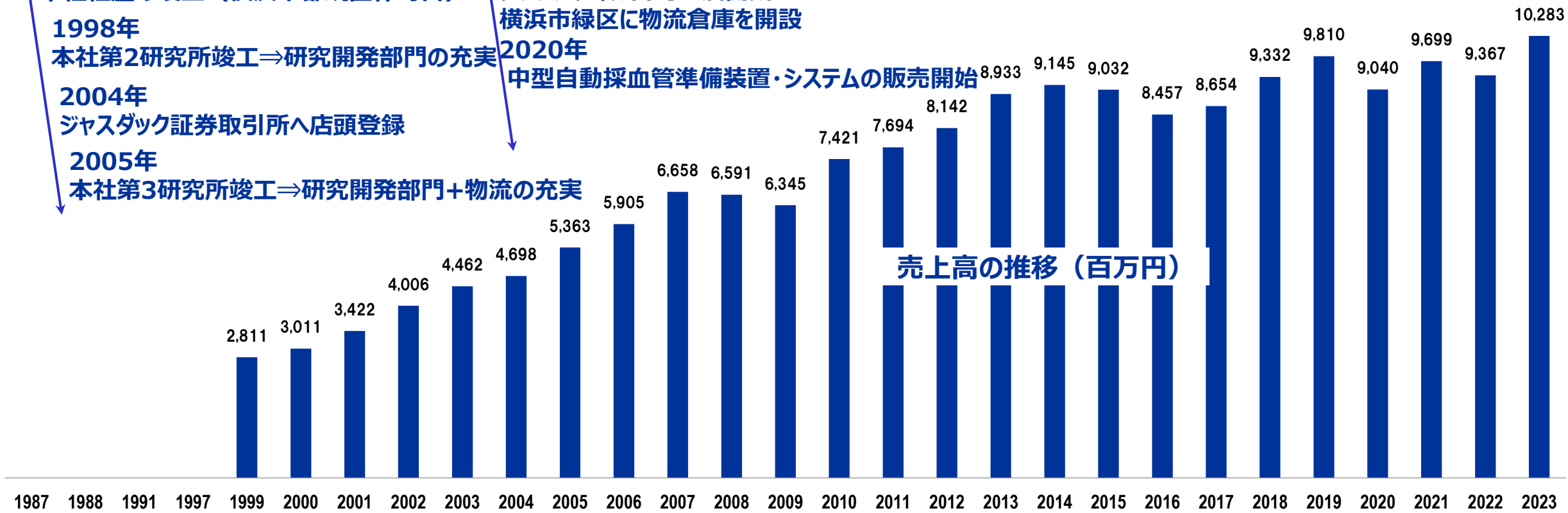
2019年  
テクノメディカ台湾支店開所  
横浜市緑区に物流倉庫を開設

2020年  
中型自動採血管準備装置・システムの販売開始

2021年  
新規開発品 採血受付システム・採血採尿受付システム  
の販売開始

2022年  
4月 東証「プライム市場」へ移行  
8月 血液ガス分析装置 新製品GASTAT-Proの販売開始

2023年10月  
東証スタンダード市場へ移行



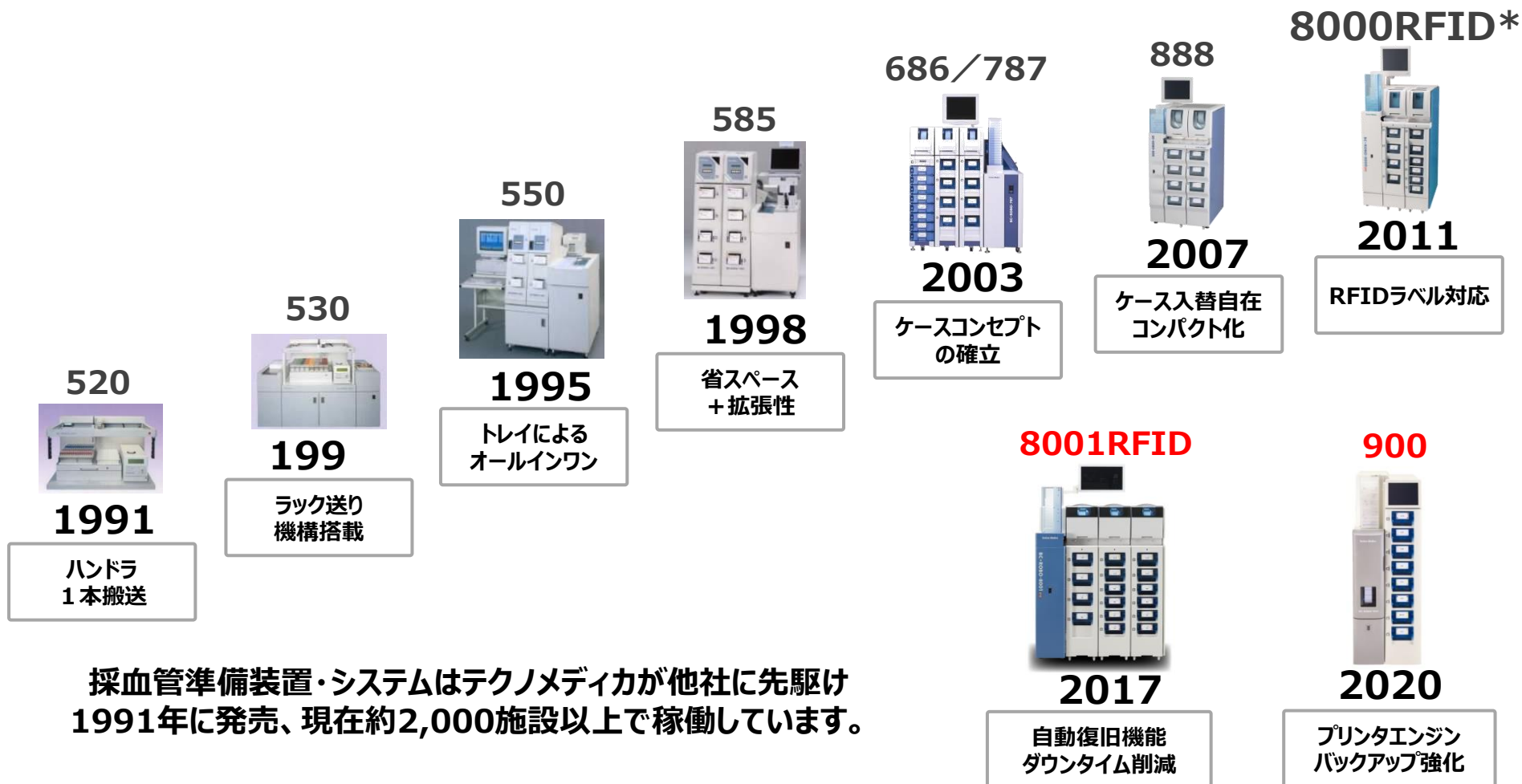
売上高の推移（百万円）

● 品目別に見た主要製品

		製品名			
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO- 8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO- 2000RFID</p>	
	検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>コンパクト血液ガス分析器 GASTAT-pro</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p>&lt;その他&gt; 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー 測定システム等</p>
消耗品等	 <p>センサーカード</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハルンカップ</p>	<p>&lt;その他&gt; 採血管準備装置および 検体検査装置の保守等</p>

CONFIDENTIAL

● 採血管準備装置・システムの歴史



\*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

<採血管準備装置・システム>

● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置  
BC・ROBO  
8001  
RFID

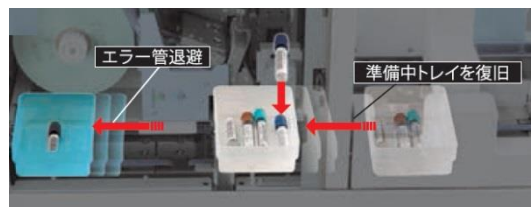
主



IoTサポート

⇒ 自動起動機能 等

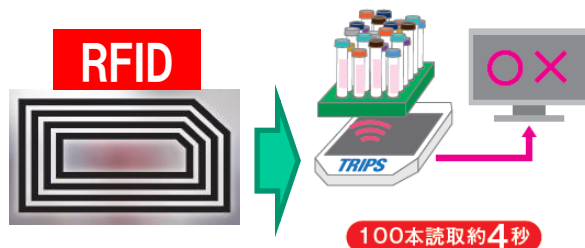
な



自動復旧

⇒ 発行動作の停止を回避

特



RFID連携強化

⇒ 検体トレーサビリティの強化

長



自動学習

⇒ メンテナンス時期のアラート 等





<採血管準備装置・システム>

● 採血業務支援システム Assist More



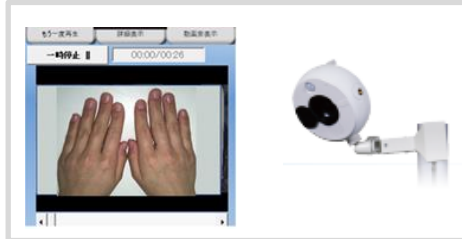
採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

採血レコーダーシステム (オプション)



- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

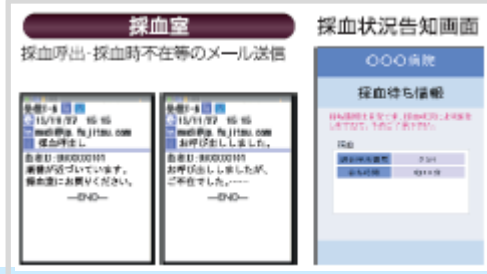
アドミニストレータ (オプション)



採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

Webメール採血呼出通知 (オプション)



患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

<採血管準備装置・システム>

● クラウド採血待合システム



これまで (朝の混雑)

- 待合場所：混雑 (蜜)
- 待ち時間：増加 (集中)

集中

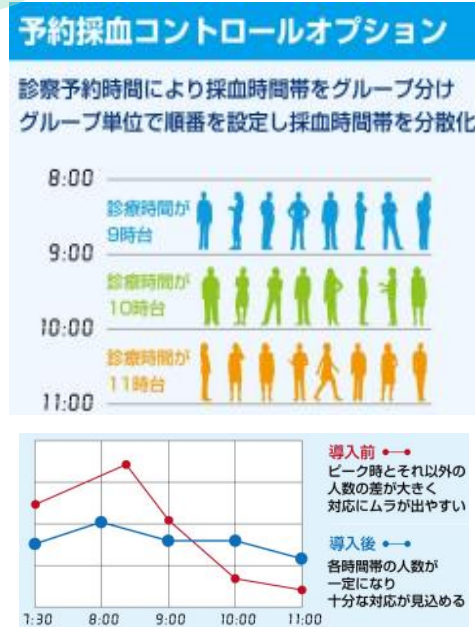


朝の順番待ち

診療予約CTLオプション

- 待合場所：定数 (蜜緩和)
- 待ち時間：短縮 (分散)

分散



診療予約に合わせて採血

クラウド採血待合

- 待合場所 / 待ち時間：自由 (分散)

自由



スマートフォンに表示

<検体検査装置>

● 全自動pH／血液ガス分析装置

**GASTAT-700 Model**

- データの信頼性を追求
- 長寿命設計で、低ランニングコスト
- IoTによりトラブルの予兆を検知



● コンパクト血液ガス分析器

**GASTAT-Pro**

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード



 **Techno Medica**

**2. 2024年3月期 決算**

売上高は初めて100億円を突破し、過去最高

(単位：百万円)

販管費増も、営業利益は前年比+1.9億円増の18.4億円で、増収増益

	2023年 3月期	2024年 3月期	前年比	
			増減額	増減率
売上高	9,367	10,283	916	9.8%
売上原価	4,737	5,131	394	8.3%
売上総利益	4,630	5,152	522	11.3%
粗利率	49.4%	50.1%	+0.7pts	
販管費	2,980	3,312	332	11.1%
営業利益	1,649	1,840	191	11.6%
営業利益率	17.6%	17.9%	+0.3pts	
経常利益	1,668	1,870	202	12.1%
当期純利益	1,150	1,348	198	17.2%
自己資本 当期純利益率	7.2%	8.9%	+1.7pts	

売上高  
増減要因

## 採血管準備装置・システム

⇒国内は、大型機や大規模施設向けシステム等の販売案件が大幅増

海外は、案件延期や競合激化で大幅減

< 国内+25.9%増、海外△44.6%減 >

## 検体検査装置

⇒国内は、血液ガス分析装置について、デスクトップ型、ハンディ型のいずれも売上が伸長

海外は、新型コロナ対応による需要増も収束しつつあり、販売伸びず

< 国内+16.6%増、海外△20.3%減 >

## 消耗品等

⇒国内、海外市場とも安定した需要継続

< 国内+3.3%増、海外+5.4%増 >

販管費  
増減要因

研究開発費、人件費、株式報酬費用等の増加により、331百万円の費用増加

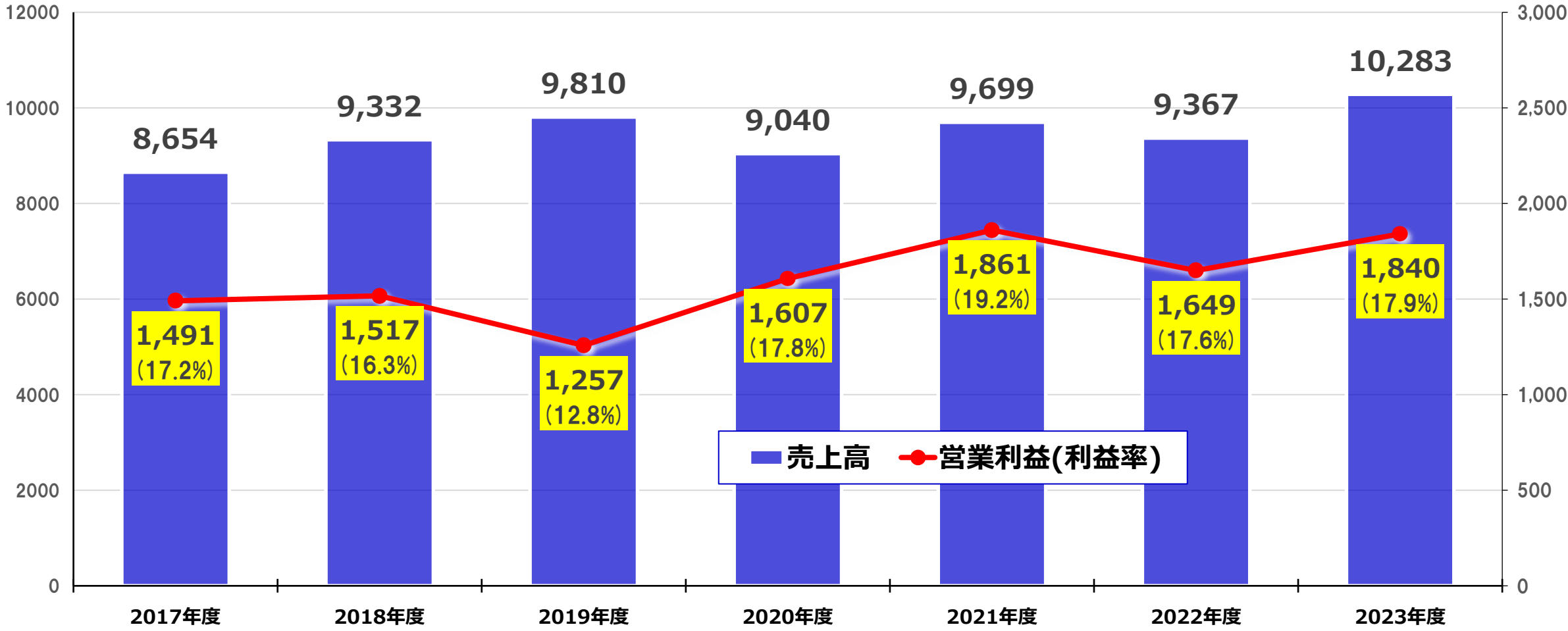
# 売上高・営業利益推移



- ◆ 23年度は、100億円超の売上高となるも、営業利益は販管費の増加により、18.4億円に止まる。
- ◆ 営業利益を年度ごとに見ると増減はあるが、7年間の推移で見ると増益基調

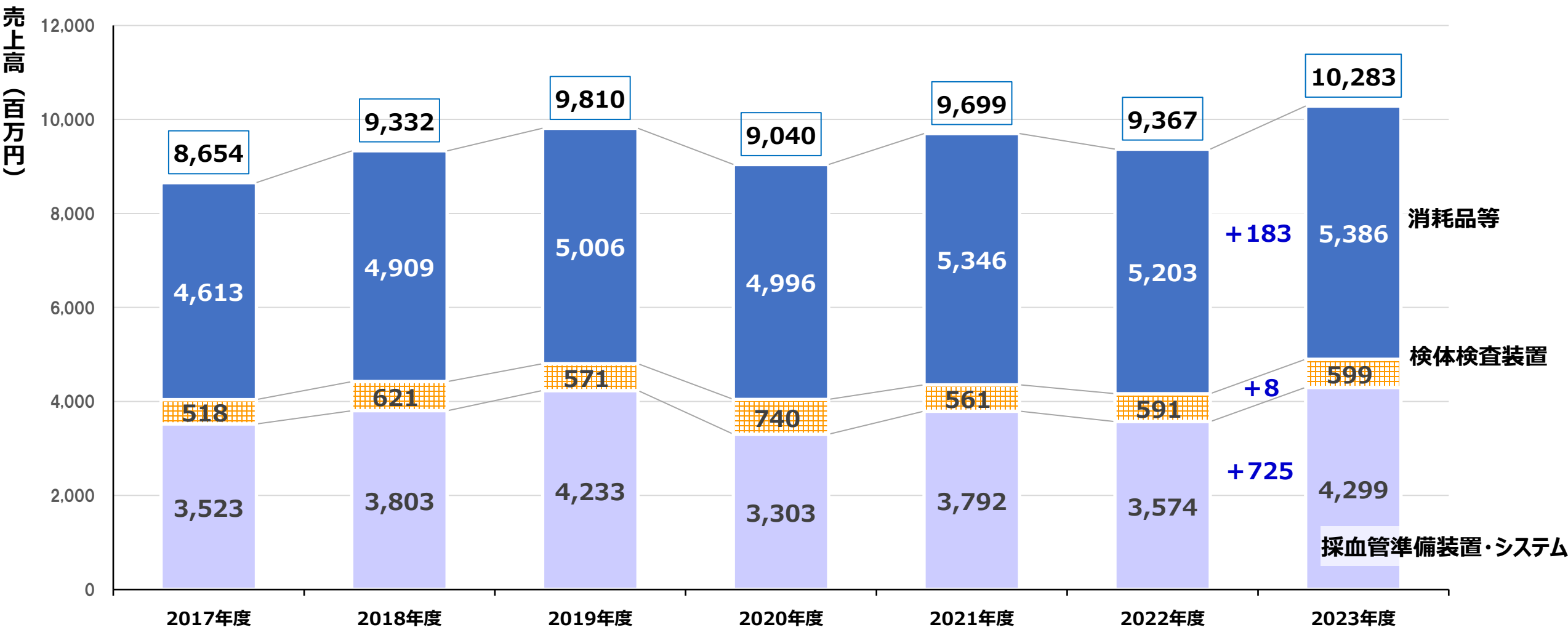
売上高 (百万円)

営業利益 (百万円)



# 品目別売上高推移

採血管準備装置・システムは、20年度以降、35億円前後で推移していたが、23年度は19年度以来40億円を超え、過去最高の売上となった。 検体検査装置、消耗品等も若干の増減はあるものの、堅調に推移している。

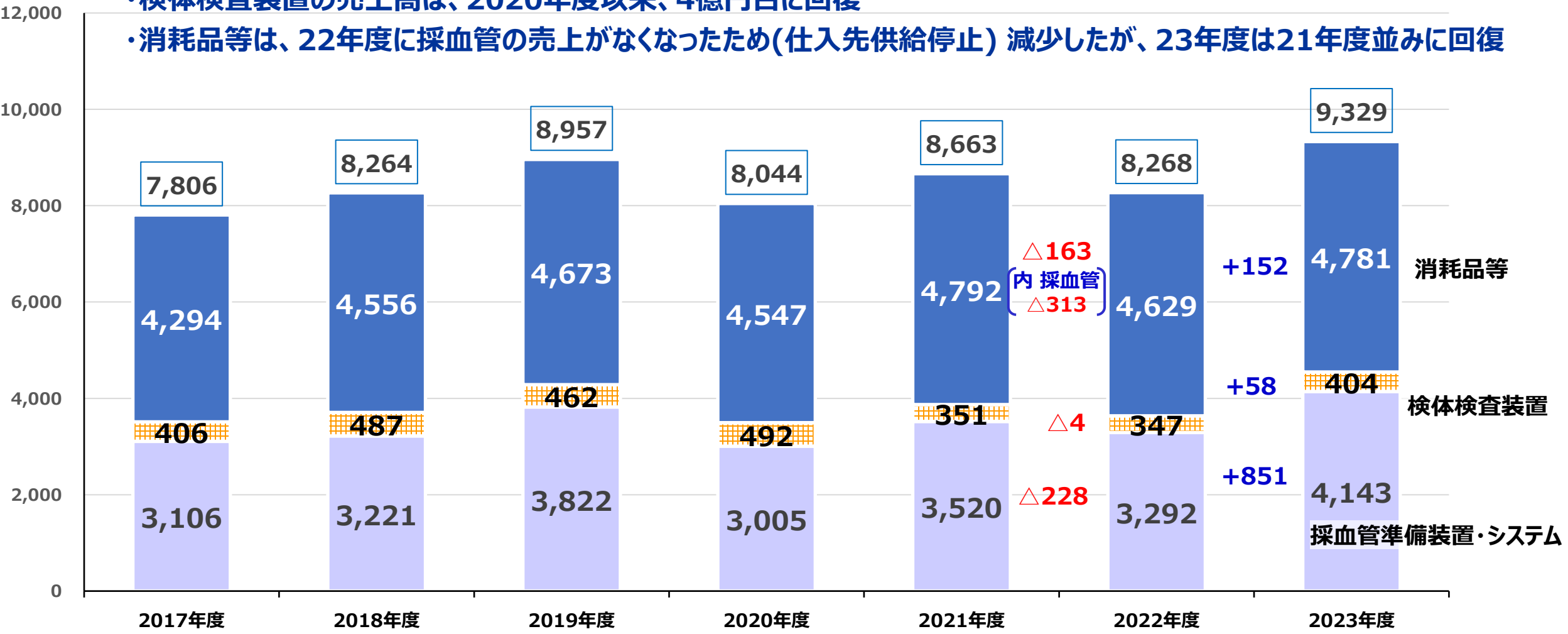




国内 品目別売上推移

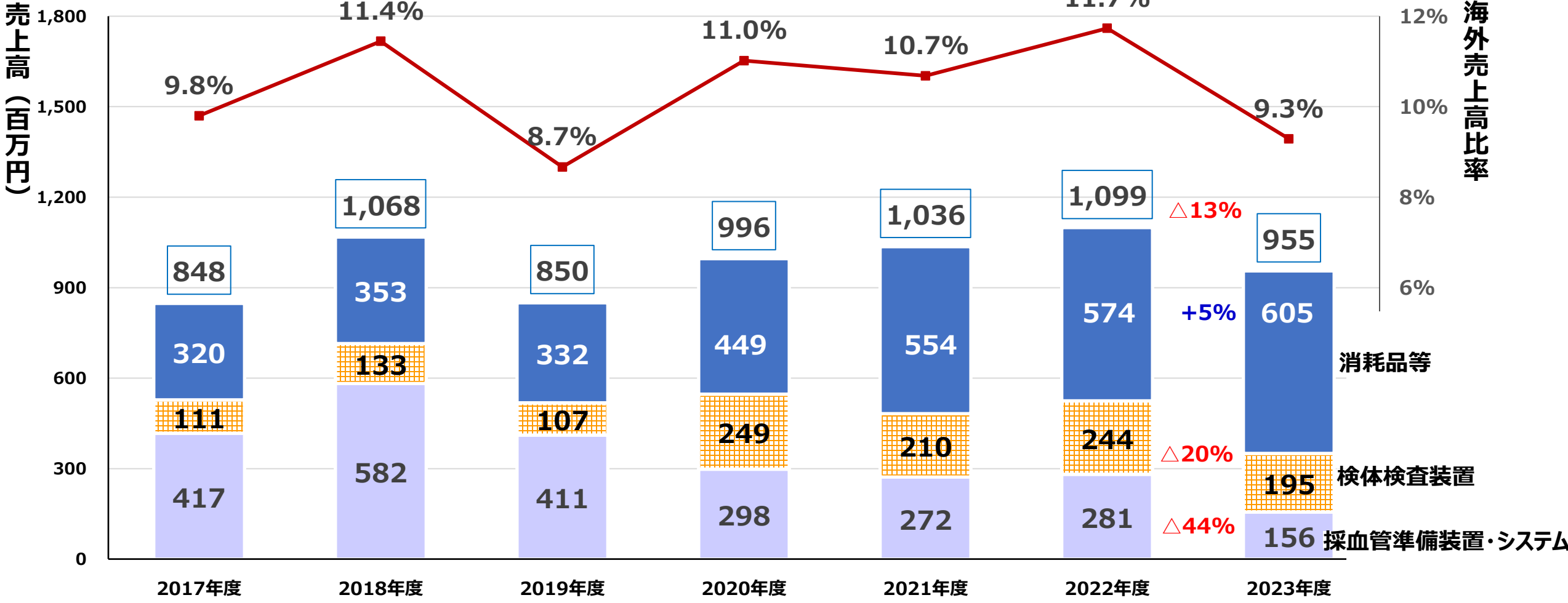
- ・採血管準備装置・システムの23年度売上高は、40億円を超え、過去最高となった。
- ・検体検査装置の売上高は、2020年度以来、4億円台に回復
- ・消耗品等は、22年度に採血管の売上がなくなったため(仕入先供給停止) 減少したが、23年度は21年度並みに回復

売上高  
(百万円)



# 海外 品目別売上推移

- ・海外売上高は、2020年度以降、消耗品等を中心に着実に増加していたが、2023年度は前年比△13%となった。そのうち、特に採血管準備装置・システムが大幅に減少し（同△44%）、1億円台半ばまで低下した。
- ・海外売上高比率は、国内売上増、海外売上減で、9.3%まで低下



- 24年3月末) ・資産合計は174億円で、前期末比△20億円の減少 (現預金△32億円、売上債権+7億円、他)  
 ・負債合計は 36億円で、同+6億円の増加 (その他のうち、前受金、未払金、未払消費税等、他)  
 ・純資産合計は138億円で、同△26億円の減少 (自己株式の増加△34億円、他)

(単位：百万円)

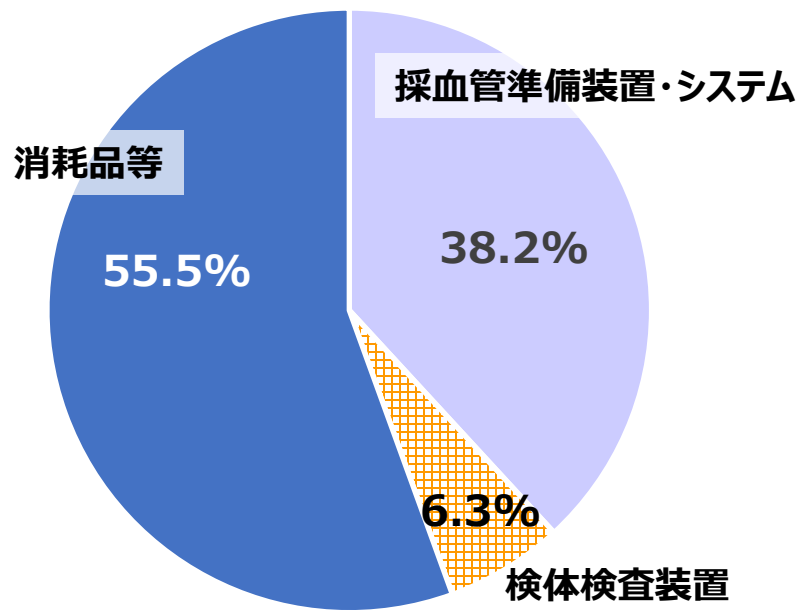
	23年3月末	24年3月末	増減		23年3月末	24年3月末	増減
流動資産	17,307	15,081	△2,226	流動負債	2,810	3,359	+549
現預金	11,750	8,586	△3,164	買入債務	1,500	1,415	△84
売上債権	3,574	4,297	+723	その他	1,311	1,944	+633
棚卸資産	1,866	2,155	+289	固定負債	246	256	+10
その他	117	43	△74	負債合計	3,056	3,615	+559
固定資産	2,136	2,352	+216	資本金	1,070	1,070	
有形固定資産	1,528	1,449	△79	資本剰余金	968	1,003	+35
無形固定資産	23	71	+48	利益剰余金	14,891	15,731	+840
投資その他	586	832	+247	自己株式	△542	△3,985	△3,443
資産合計	19,443	17,433	△2,010	純資産合計	16,386	13,818	△2,568
				負債純資産合計	19,443	17,433	△2,010

- ・2024年3月期の現預金等は△31.6億円減少し、期末の現預金等の残高は85.9億円。
- ・営業活動によるキャッシュフローは、利益の増加等により、前年比+2.6億円増の11.4億円、財務活動によるキャッシュフローは、自己株式の取得、配当金の支払により、前年比△37億円減の△42.1億円。

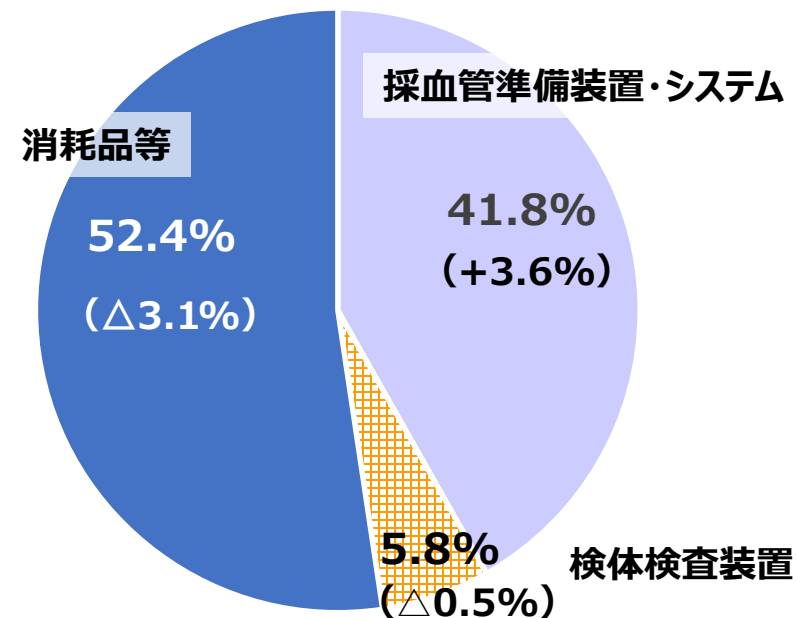
(単位：百万円)

摘 要	2023年 3月期	2024年 3月期	増 減
営業活動によるキャッシュフロー (A)	887	1,142	255
投資活動によるキャッシュフロー (B)	△155	△100	55
フリーキャッシュフロー (A+B)	732	1,042	310
財務活動によるキャッシュフロー			
自己株式の取得		△3,698	△3,698
配当金の支払額	△505	△508	△3
小計 (C)	△505	△4,205	△3,701
現預金等増減 (A+B+C)	227	△3,164	△3,391
現預金等の期首残高	11,524	11,750	227
現預金等の期末残高	11,750	8,586	△3,164

2022年度 売上構成



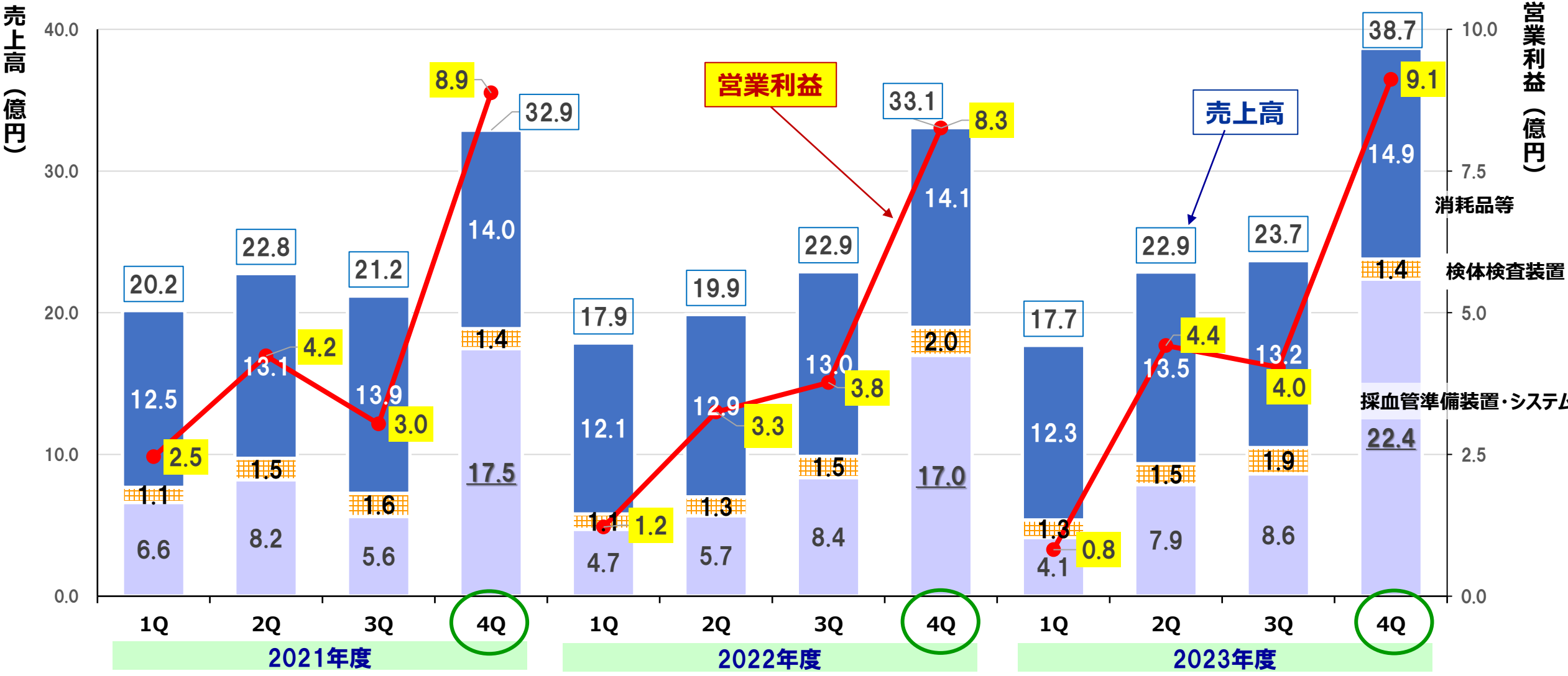
2023年度 売上構成



品目区分	2022年度	2023年度	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	3,574	4,299	725	20.3%
検体検査装置	591	599	8	1.4%
消耗品等	5,203	5,386	183	3.5%
計	9,367	10,283	916	9.8%

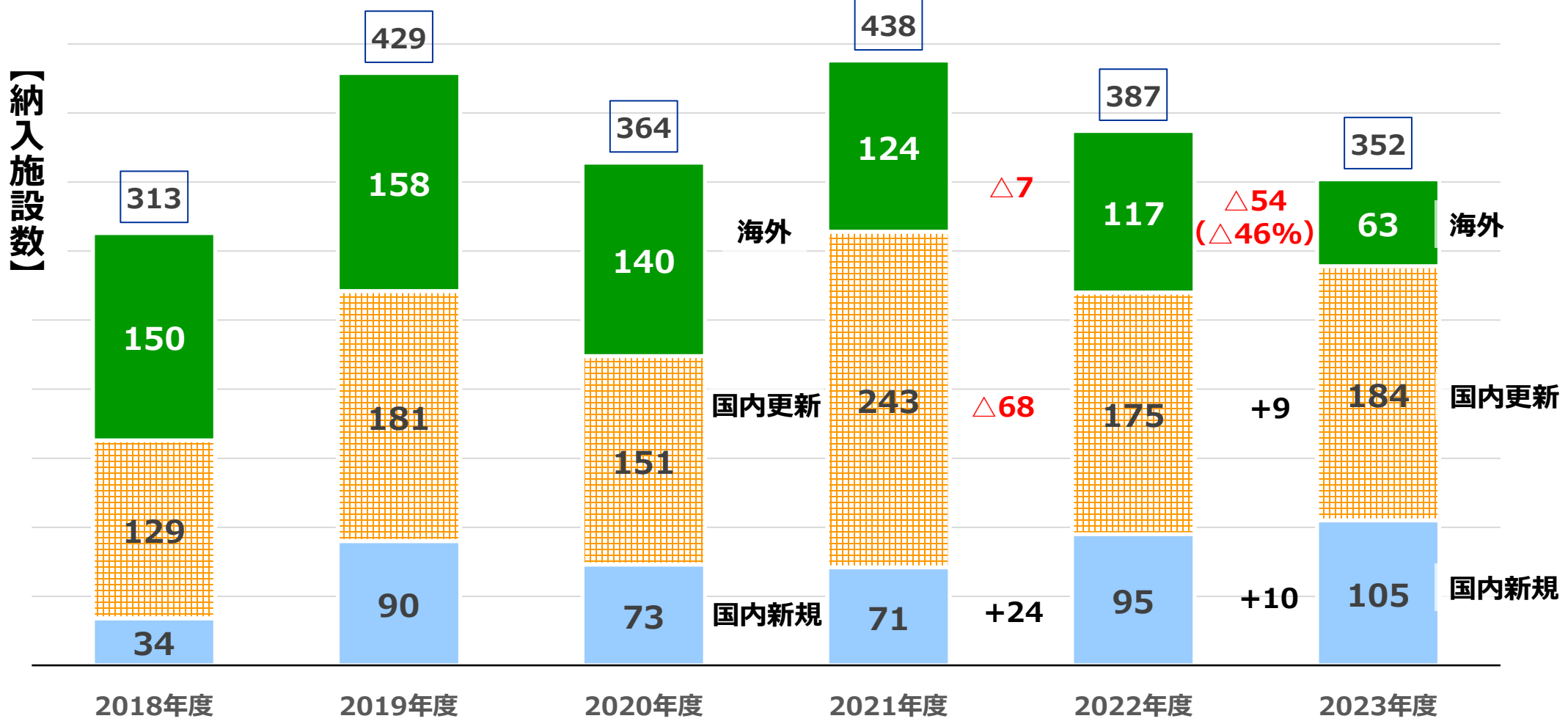
品目別売上高、利益 四半期ごとの推移

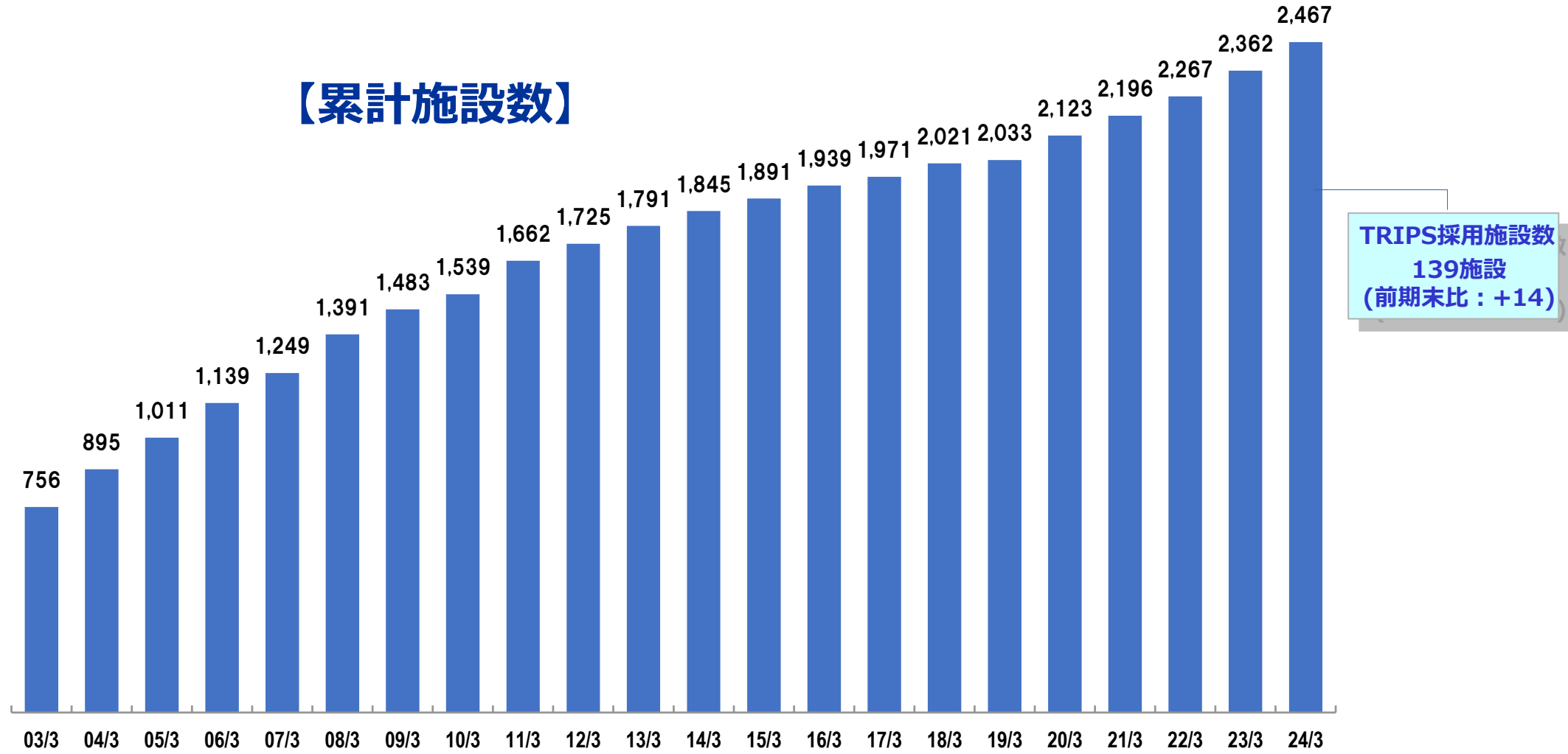
主力の採血管準備装置・システムの売上は、4Qに集中するため、全社の売上、利益とも4Q偏重



# 採血管準備装置・システム – BC・ROBO納入施設数

- ・23年度は、国内は新規、更新ともに前期比増であったが、海外は大幅な減少となった。
- ・23年度について、国内の納入施設数は、21年度より少ないが、売上高は、大規模施設向けシステム案件の大幅増等により、21年度を上回っている。









# **3. 2025年3月期 業績見通し**

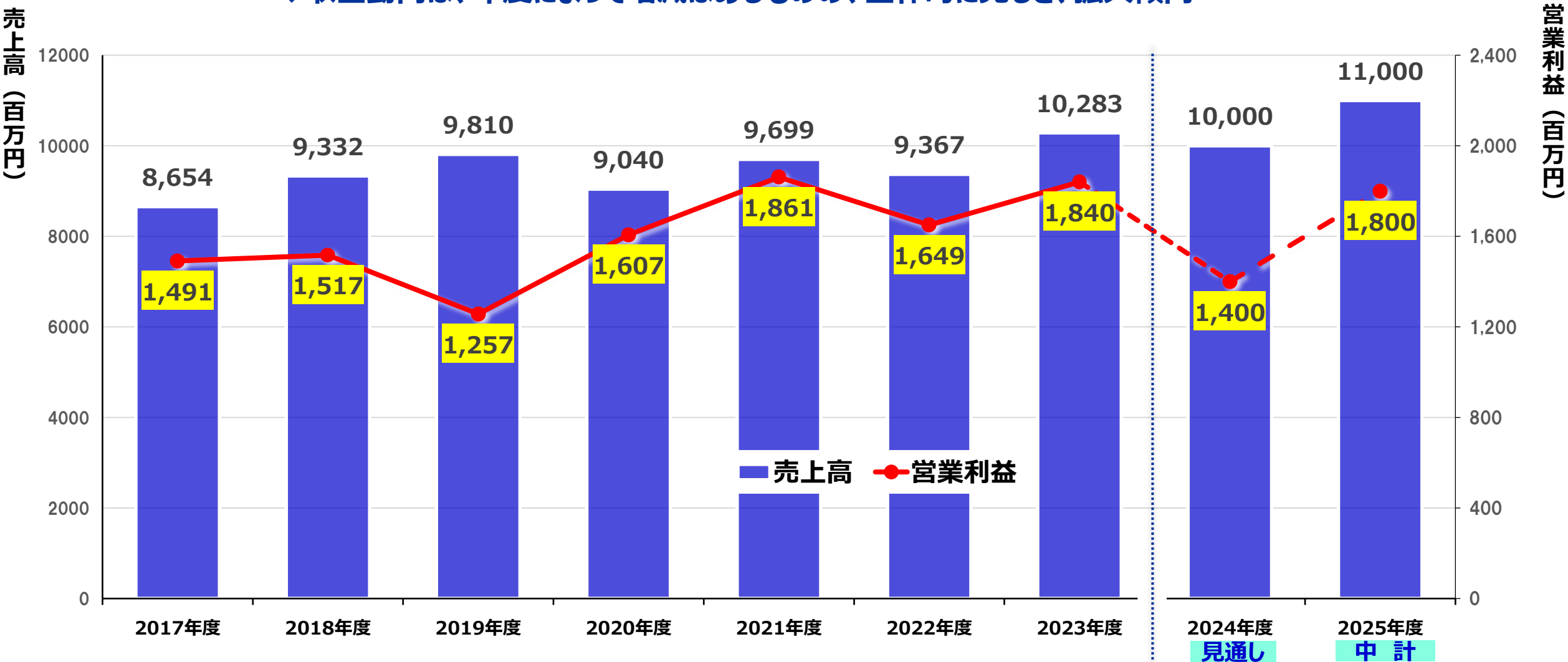
- ◆ 25年3月期の売上高は、当初販売を見込んでいた案件の、24年3月期への前倒しにより、対前年減収
- ◆ 営業利益は、減販及び販管費の増加（研究開発費、労務費等）により、対前年4.4億円減益の見込み

(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上高	10,283	10,000	△283	△2.8%
売上総利益	5,152	4,910	△242	△4.7%
粗利率	50.1%	49.1%	△1.0pts	
販管費	3,312	3,510	198	6.0%
営業利益	1,840	1,400	△440	△23.9%
営業利益率	17.9%	14.0%	△3.9pts	
経常利益	1,870	1,400	△470	△25.1%
当期純利益	1,348	970	△378	△28.0%

# 売上高・営業利益推移

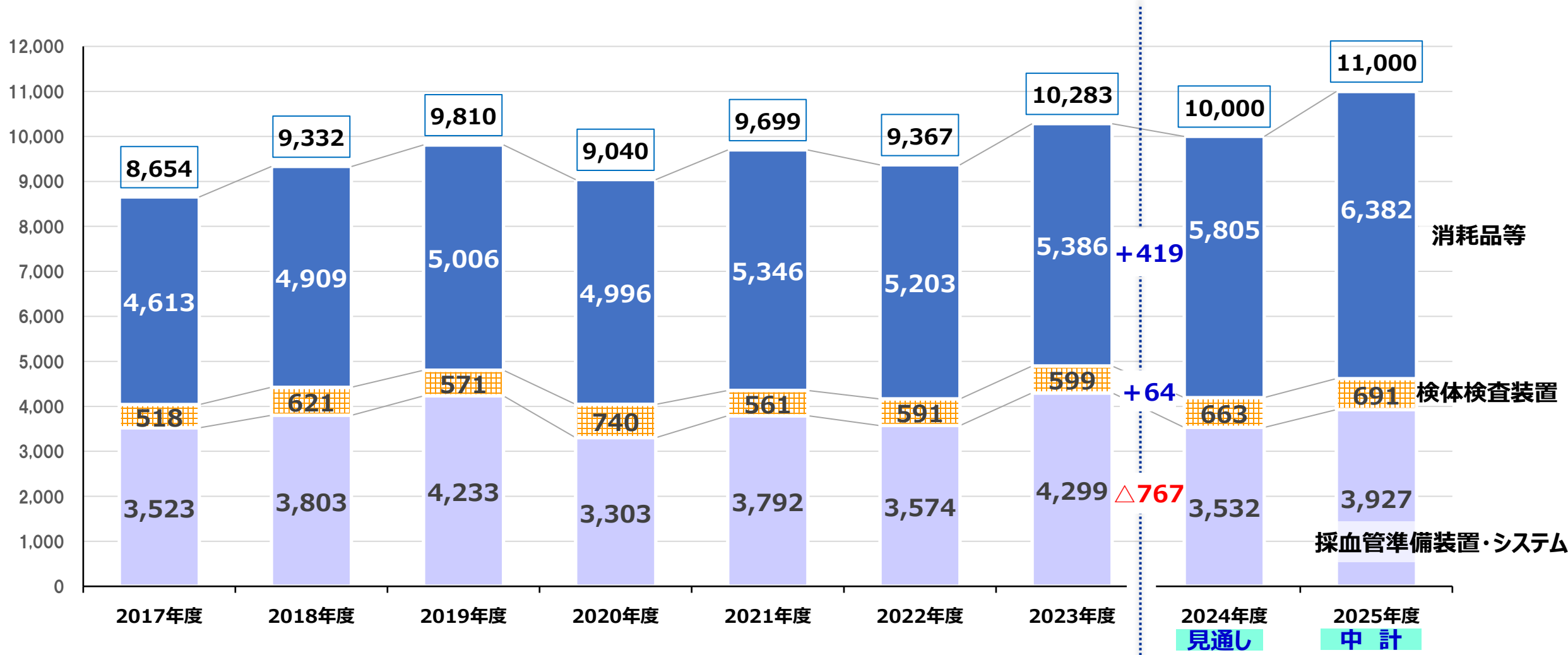
- ◆ 中計25年度は、販管費の増加が見込まれるが、増販により利益の回復を見込む
- ◆ 収益動向は、年度によって増減はあるものの、全体的に見ると、拡大傾向



# 品目別売上高推移

◆24年度見通しは、採血管準備装置・システムの売上高が、23年度への案件前倒しにより減少するが、消耗品の数量増+値上げ、検体検査装置の海外拡販により、売上高100億円を確保する。

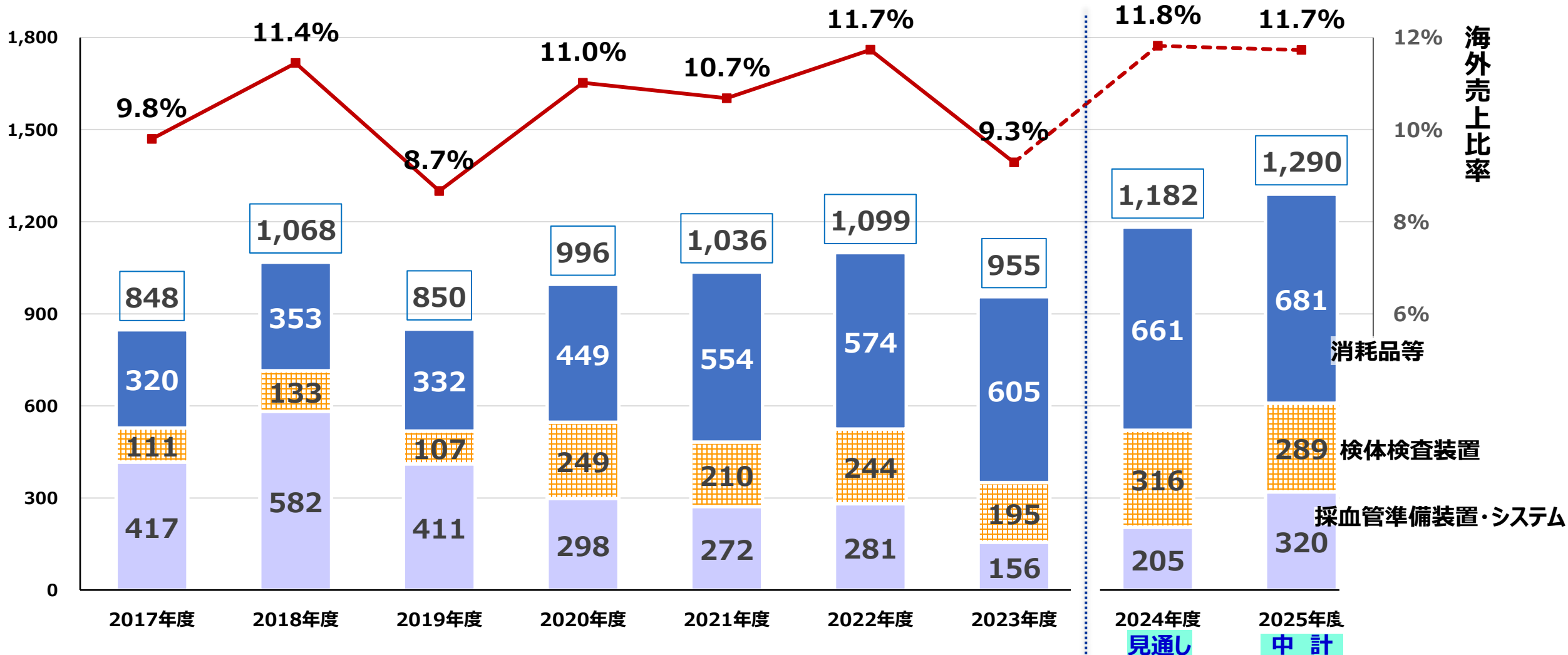
売上高 (百万円)



# 海外 品目別売上推移

・採血管準備装置・システム及び検体検査装置の売上高は、2023年度で急減したが、24年度では回復を見込む

売上高  
(百万円)



 **Techno Medica**

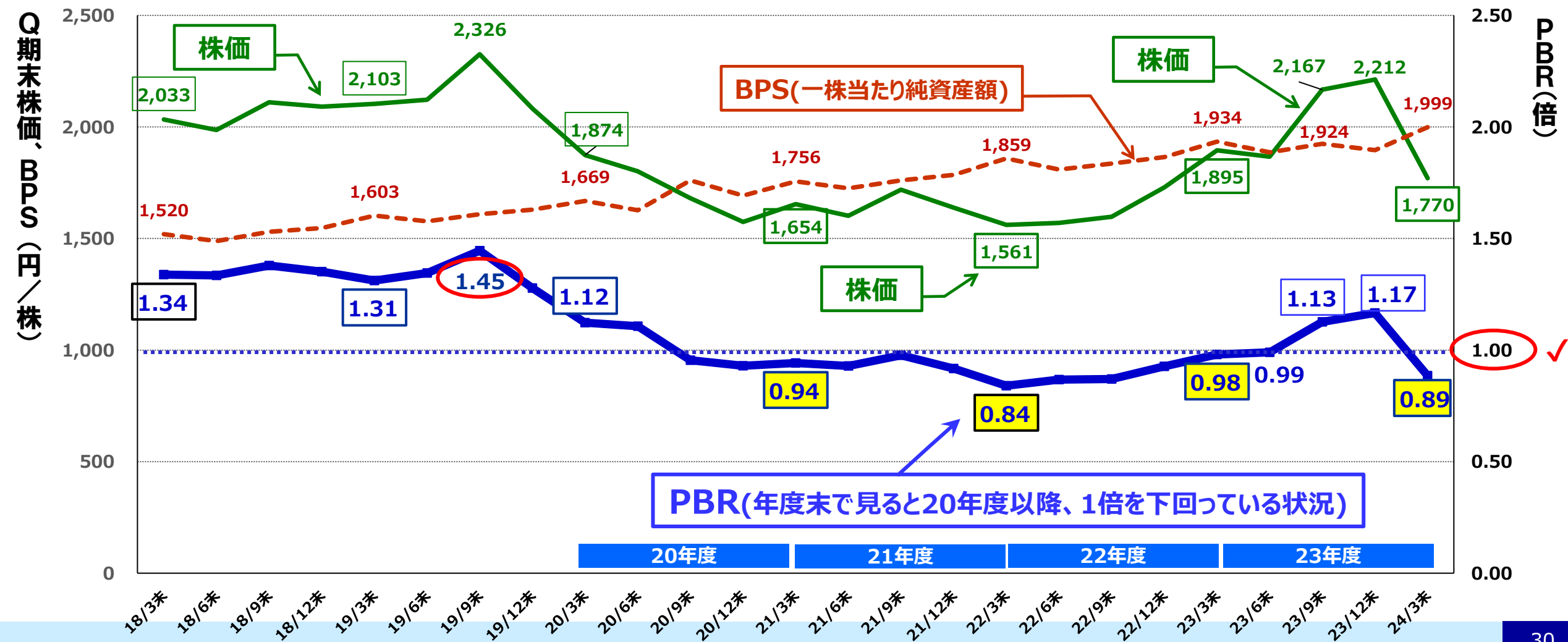
**4. 資本コストや株価を意識した  
経営の実現に向けた対応**

#### 4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (1/9)

### 1) 現状分析①：当社の四半期毎のPBR(株価純資産倍率)推移 TMC Techno Medica

PBR (株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS (一株当たり純資産額 (自己株式数を除く))

PBRは、19/9末の1.45をピークに、株価の下落、停滞及びBPSの漸増により下落し、20~22年度では、0.9前後で停滞。その後、株価の上昇で、23/12末に1.17まで回復したが、4Qで株価が急落し、24/3末は再び1倍割れ(0.9)の状況。



# 1) 現状分析② : 当社のROE(自己資本利益率)とPBRの推移

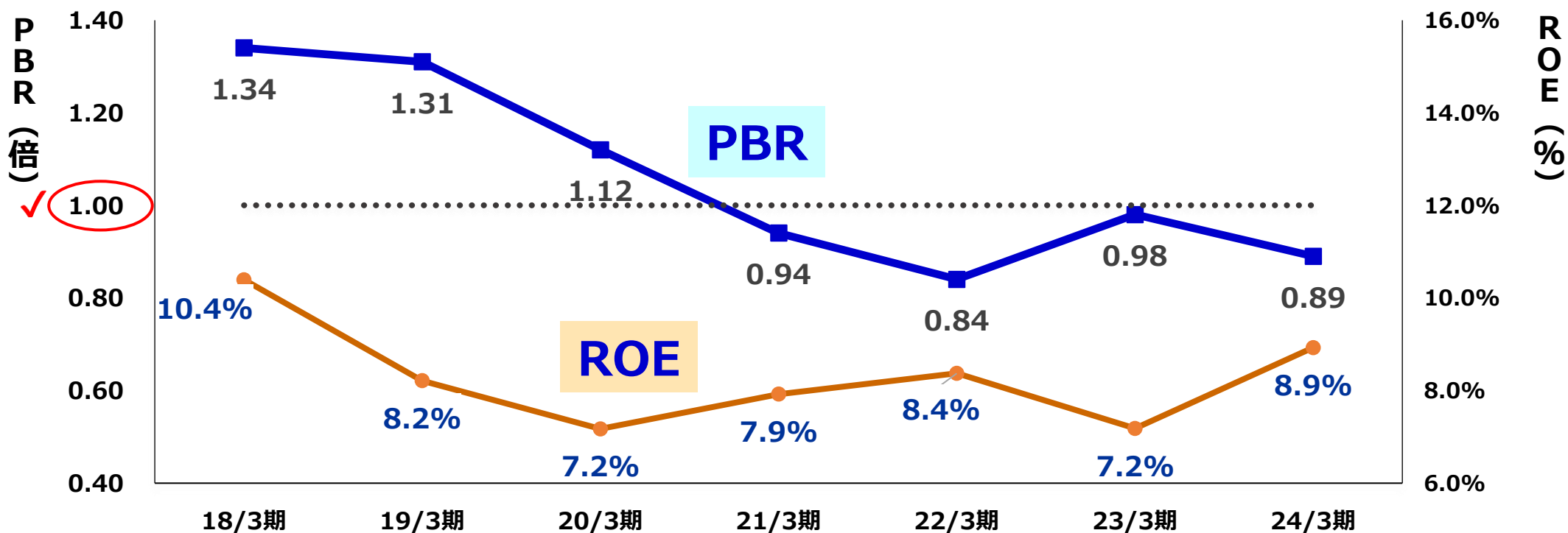
PBR (株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS (一株当たり純資産額 (自己株式数を除く))

ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 ÷ 自己資本 ((前期末+当期末)/2) × 100

◆ ROEは、20/3期まで下落した後反転し、22/3期で8%超まで上昇。23/3期で再び下落も、24/3期は9%近くまで上昇。

一方、PBRは19/3期以降、22/3期まで下落。23/3期は回復するも、1倍割れの状況が続いている。

→ ROEが8%以上の水準になっても、PBRは上昇せず。(ROEとPBRは相関していない)

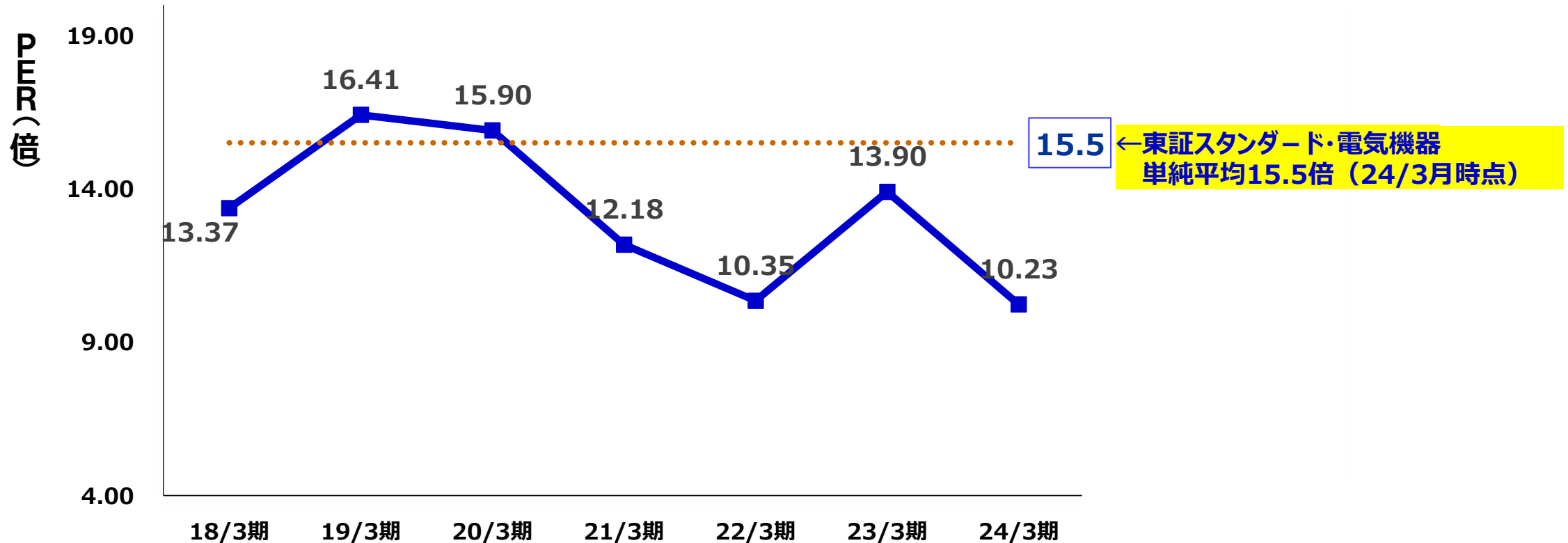




# 1) 現状分析③ : 当社のPER (株価収益率) の推移

PER (株価収益率) = 株価 ÷ EPS (一株当たり当期純利益金額)  
株価がEPS (1株当たり純利益) の何倍の価値になっているかを示すもの

- ◆ 一般的に、PERの数値目安は15倍といわれており、PERが15倍未満であれば株価に対して割安、15倍以上であれば割高と判断される。
- ◆ 当社のPERは下記の通り、以前は15倍を超える時期もあったが、21/3期以降、15倍未満となり、減少傾向にある。

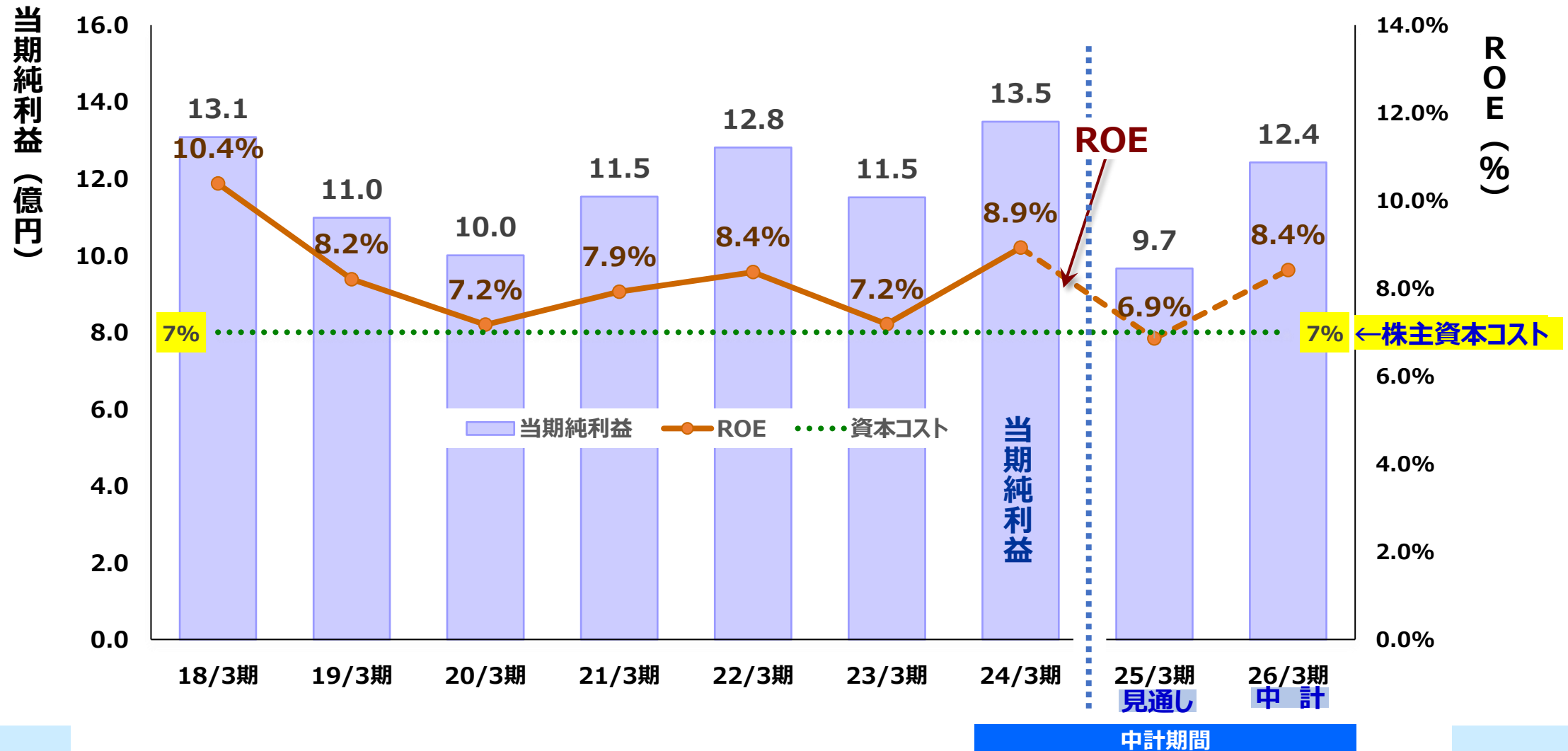


## 1) 現状分析⑤：当社の株主資本コストの考え方

- ◆多くの企業が、CAPM（=10年国債利回り+株式市場全体のリスクプレミアム×β）を使い、株主資本コストを推計しているが、リスクプレミアムの水準やβ値は企業によって異なることが多く、明確な水準を求めることは困難である。
- ◆当社の場合、β値はここ3年間漸減し、24年3月末では、4Qの株価の下落により0.07まで低下した。このため、CAPMは2.2～1.1%と低位となっている
- ◆よって、当社自らが、株主の期待リターン水準を設定することとし、今回、株式市場が示唆する、株主が要求するリターンの一つと言える、**株式益利回りに基づく算定値（過去の株式益利回りの平均値≒7%）**を株主資本コストに設定した。  
(株式益利回り =  $1 \div \text{PER}$  (PERの逆数) )

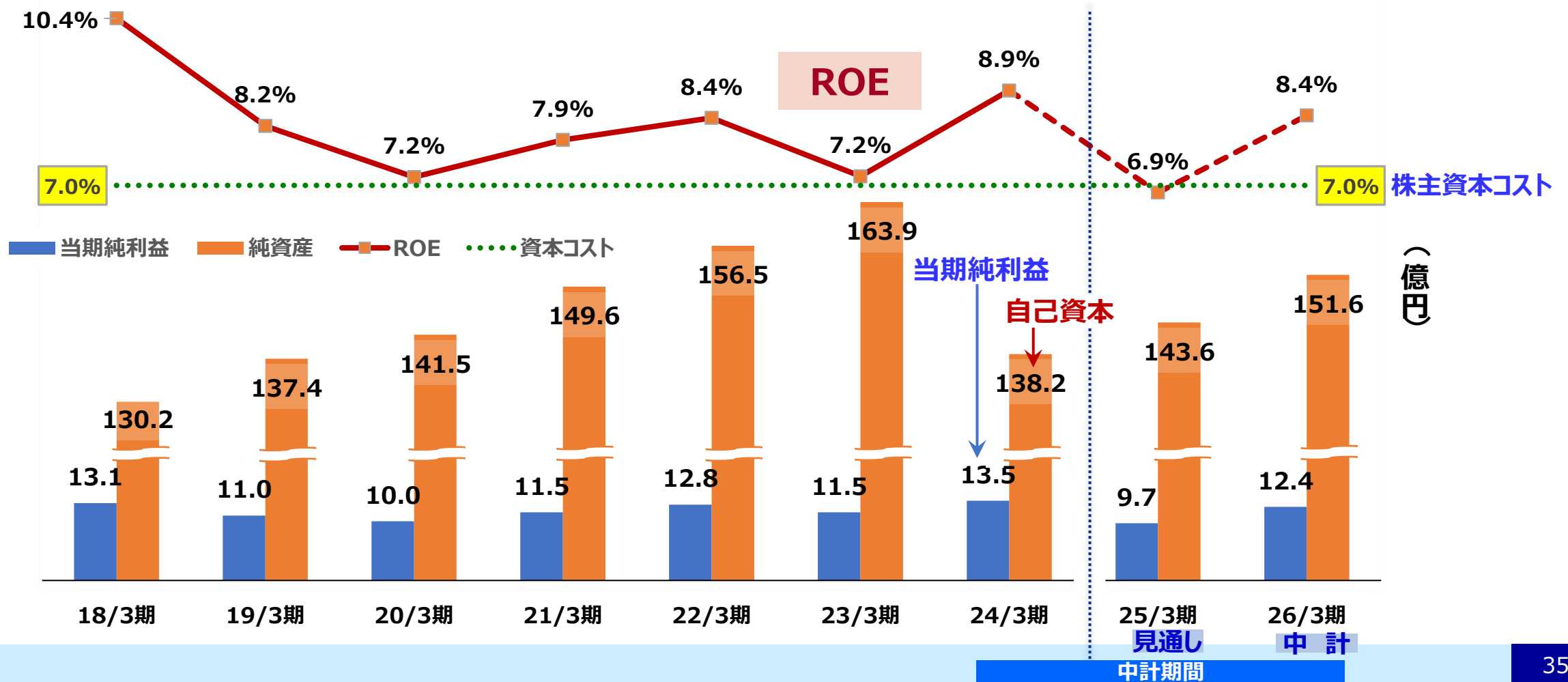
## 2) ROEと資本コスト (株式益利回り)

◆ 24/3期までの実績ROEは、株主資本コスト7% (株式益利回り (17~23年度 (7年間) の単純平均値ベース) を概ね上回っている。25/3期予算は減益で、ROEは7%を割り込むが、26/3期中計では、収益回復により、ROEは8%超を見込む。



### 3) 自己資本と当期純利益、及びROEの推移

◆24/3期のROEは、増益及び自己資本の減少（自己株37億円の取得により対前年△25.7億円減少）により、9%近くまで上昇。今後、自己株式の取得については、株主還元にとり必要性・有益性を検討の上、実施する。



## 4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (7/9)

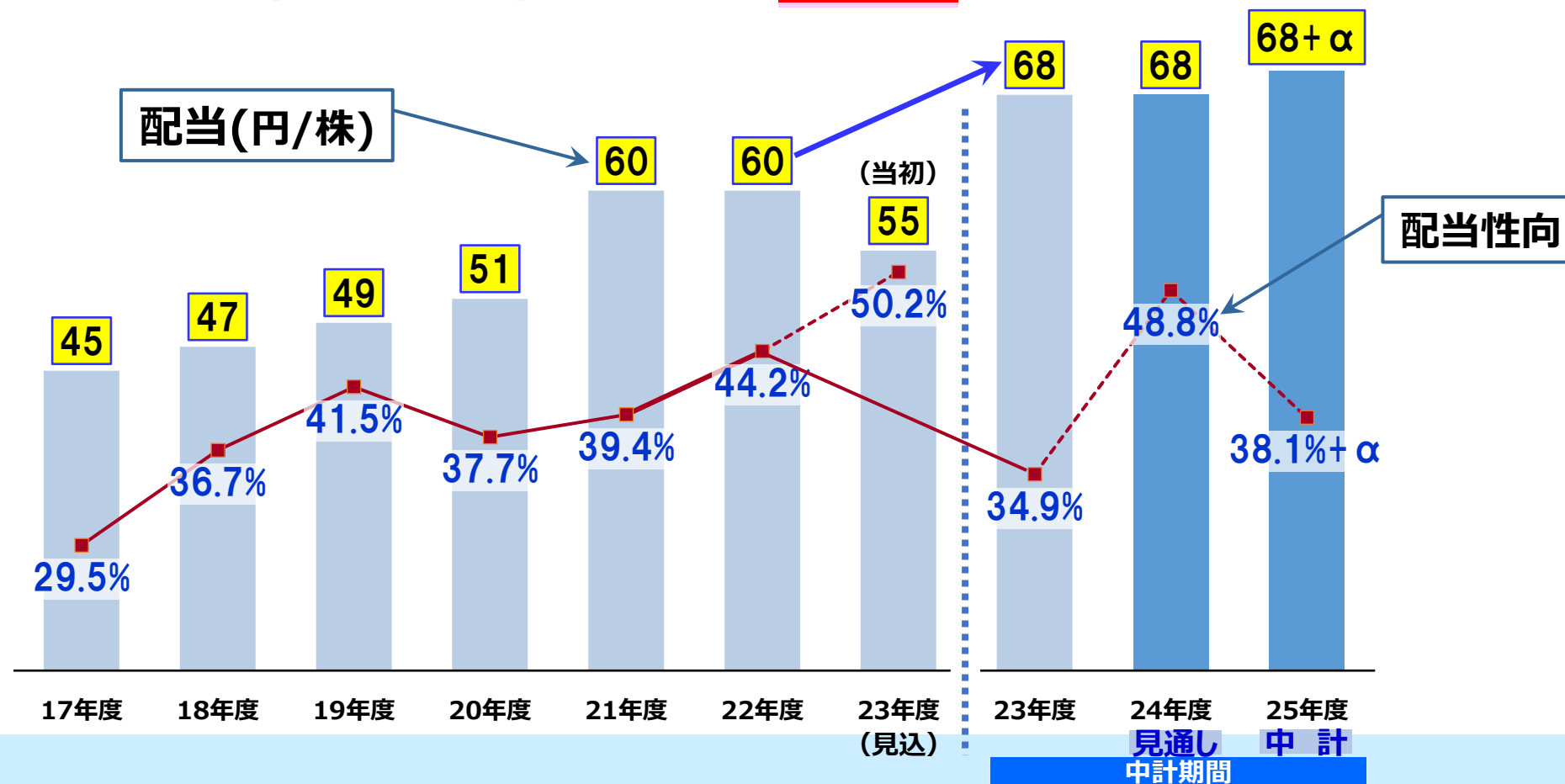
## 4) 株主還元方針

◆株主への利益還元を重要施策の1つと位置づけし、経営環境、業績に裏付けされた成果の配分と、内部留保額の決定を行うことを基本方針としている。

かかる方針のもと、22年度まで下記の通り配当を実施し、累進配当（配当支払いを増配か維持）を行ってきた。

◆23年度の配当は、前年比増益となったため、増配の予定。

→今後の方針として、中計期間（23-25年度）においては、累進配当を継続する。



### (1) 現状評価

- ◆ 当社のROEは、直近の24/3期は8.9%であったが、25/3期は6.9%を見込んでおり、資本コスト7%と同等の状況にある。
- ◆ 一方、PBRは21/3期以降、0.9倍前後で推移し、1倍割れが続いている。  
また、PERも21/3期以降、15倍を割り込み、減少傾向となっている。  
よって、投資家の、当社に対する利益成長への期待値はあまり高くないと推測される。
- ◆ 株主還元については、これまで安定配当と自己株式の取得を行ってきたが、資本コストや株価を意識した、更なる方策が求められる。

## (2) 改善に向けた取り組み

- ◆ 24/3期の営業利益は18.4億円で、中計目標13億円を上回る結果となった。  
引き続き、持続的成長に向けた収益拡大策(※)を遂行し、23中期経営計画の目標(23-25年度営業利益3ヶ年合計45億円、ROE8%以上) 以上の達成を目指す。  
(※) 既存製品の収益確保に加え、採血管準備装置・システムの新製品の上市、拡販、及び海外への拡販、検体検査装置関連の生産性向上による収益改善、消耗品の値上げによる利ザヤ確保等
- ◆ 配当については、安定的な配当を目指し、中計期間(23-25年度)において累進配当を実施し、株主還元の充実に努める。  
自己株式の取得については、株主還元にとり必要性・有益性を検討の上、実施する。

## ＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。

**ご清聴ありがとうございました**